

# 国語科における「単元を貫く言語活動」の授業づくり

宇城教育事務所・松橋小学校

宇城市立松橋小学校では、平成23・24年度国立教育政策研究所の研究指定校として国語科の授業実践に取り組みました。「単元を貫く言語活動」の在り方等について、先進的な授業実践等をされましたので、ここに紹介します。

## (1) 研究主題

自ら考え表現し、豊かに学び合う国語科学習の創造

## (2) 研究主題設定の理由

- 学習指導要領の趣旨を踏まえた国語科での視点は、「学習意欲を高め、主体的な学習にかえること」「実生活や他の教科に活用できる国語科の授業にすること」と考え、その手立てとして、「言語活動の充実」を図っていくことにした。また、本校児童の実態として、「各種検査等から見て国語の学力は低くないのに好きだと答える児童が少ない」「対話活動について中心的に取り組んできたはずなのに他の教科や学校での教育活動の場で十分に機能していない」という実態があった。

以上のようなことから、児童が言語の力を獲得しつつ、言葉で考え、言葉で表現し、互いに学び合う国語科学習の創造を目指して本主題を設定した。

## (3) 具体的な研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等

- **学習意欲を喚起し、継続させる課題の設定と提示**

- ・ 身に付けさせたい言語の力の系統化・明確化
- ・ 児童の実態に沿う、課題設定と単元を貫く言語活動の位置付け
- ・ 並行読書への準備と活用

- **考えや思いを表現し合う言語活動の効果的な位置付け**

- ・ 考える力、表現する力の育成
- ・ 主体的に学ぶ学習づくり

- **指導と評価の一体化**

- ・ 国語科の学習における評価上の留意点
- ・ 適切な評価のための評価規準の設定
- ・ 身に付けさせたい言語の力の見極め

- **国語科学習を補充し、効果をあげる基盤づくり**

- ・ お話道場や国語集会の取組
- ・ 家庭読書や朝読書等の取組
- ・ 教室や廊下等の掲示による学習の日常化

## (4) 研究の成果

- 子どもは、見通しと学習意欲を高めて授業に臨めた。
- 子どもは、自分の考えを書いたり伝えたりすることができるようになった。
- 読書量が増え、本を好きな子どもが増えた。
- 指導事項を明確にした言語活動の項目設定で、個に応じた指導がしやすくなった。
- 指導事項の分析やモデルづくりなど、今まで以上に教材研究が必要になったが、夢中になって取り組む子どもの姿を見て、教師側も意欲が高まってきている。

## (5) 今後の取組

- 子どもたちの考えを生かす話し合い活動のさらなる向上に取り組み、思考力・判断力・表現力の一層の伸長を期する。
- 単元を貫く言語活動の充実を「読む」から「話す・聞く」「書く」領域へ広げる。
- 「並行読書」の選書及び図書確保について、関係機関と連携を図っていく。

